

# 桜環境新聞

## さいたまの生きmono展

### Instagramで参加!!

1月5日(水)～2月27日(日)、「さいたまの生きmono展2022」をよく見て探して」を開催しています。

「街」の印象が強いさいたまでも、よく見ると様々な生きものが暮らしています。

参加方法は、桜環境センターのインスタ公式アカウント「sakurak.eco」を付けて投稿。さいたま市内で撮影された野生の動物の写真であれば、季節や時期は問いません。エピソードなども添えて、投稿をお待ちしています。

さいたまの生き mono 展 2022

よく見て探して

さいたまで生きものを見つけよう

①Instagram #さいたまの生きものに投稿して、さいたまにいる生きものをシェアしよう!  
【募集期間】1月5日(水)～2月27日(日)

②シーオそだて隊  
「真冬の生きものスペシャル調査」  
【日時】2月27日(日)13:30～14:30  
※要事前申し込み  
【会場】桜環境センター・シーオ  
【申込】桜環境センター環境啓発施設  
Tel:048-710-5345 Fax:048-839-6387  
メール:sakura@com-sup.com  
【ホームページ】http://sakura-kc.saitama.jp  
※シーオ(SEO)とは、桜環境センター・ビオトープの愛称です。

さいたま市桜環境センター TEL: 048-710-5345 FAX: 048-839-6387 E-mail: sakura@com-sup.com  
(環境啓発施設2階アクトセンター) 〒338-0834 さいたま市桜区新聞4丁目2番1号(月曜休館)

### さいたま市 桜環境センター

〒338-0834  
埼玉県さいたま市桜区新聞4-2-1  
9:00～17:00(月曜休館)  
【環境啓発施設】  
Tel:048-710-5345(休館日除く)  
【余熱体験施設】  
Tel:048-710-5344(休館日除く)  
【施設見学・持込・その他】  
Tel:048-710-6010  
【ホームページ】  
https://sakura-kc.saitama.jp/



環境啓発施設 公式SNSアカウント



Facebook



Instagram

環境啓発施設 E-mail sakura@com-sup.com

なお、園芸栽培植物、ペット、動物園の飼育生物の写真は対象になりません。また、餌づけ、立入禁止エリアでの撮影など、マナーに反する方法で撮影された写真、環境を壊す状況で撮影

## Instagramで

### 「#さいたまの生きもの」をフォロー!

① Instagramのホーム画面の下部「Q」をタップ(軽くたたく)。

② 検索窓に「#さいたまの生きもの」と入力(#は【半角】です)。

③ 青地の「フォローする」をタップ。「#さいたまの生きもの」で投稿された写真が随時、アップされます。

「#さいたまの生きもの」を付けて投稿。さいたま市内で撮影された野生の動物の写真を、季節や時期は問いません。エピソードなども添えて、投稿をお待ちしています。

「#」はハッシュタグと読みます。半角で入力してください。

### 真冬の生きもの スペシャル調査

2月27日(日)の13時半～14時半、シーオ(ビオトープ)の中でも普段は入れない場所で生きもの調査を行います。参加された方には、シーオの特製マップをプレゼント。

対象は市内在住・在勤・在学の小学生以上の方。申込みは2月3日(木)～17日(木)に電話にて受付します。先着20名限定です。

### 東風解凍

七十二候だより  
はるかぜこおりをとく  
【2月4～8日頃】  
七十二候の一番目。東風とは「こち」と読み、春風のことです。春先に吹く東寄りの風が雪や氷を溶かし、春を運んでいきます。暦の上では春になりましたが、まだまだ寒い日が続きます。暖かくしてお過ごしください。

### フードドライブ

家に余っている食品はありませんか?  
お持ちいただければフードパントリーにつなぎ、必要とされている方にお届けします!

※寄付したいものがある時は、桜環境センター2階までお持ちください。持ち込みの際は、事前にご連絡ください。



# ビオトープの愛称決定 「ジーオ(SEEEO)」



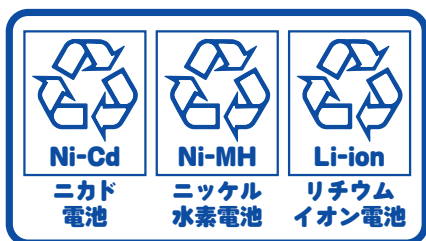
S...Sakura  
E...Environment  
E...Ecosystem  
O...Observation

「桜エコ・フェスタ2021」の開催を記念して募集した桜環境センター・ビオトープの愛称が決定しました。新しい愛称は「ジーオ(SEEEO)」です。  
Sakura(桜)の「S」、

## 知っているようで知らない 「ごみの正しい出し方」

### 充電式電池

モバイルバッテリー、ノートパソコン、ハンディクリーナー、ロボット掃除機、電子たばこ、電気かみそり、電動工具など、充電して使用する機器には、ニカド電池、ニッケル水素電池、リチウムイオン電池などの充電式電池が使われています。



充電式電池は、もえるごみ、もえないごみなどに混ぜると回収されると発火の原因になり、収集車やごみ焼却炉に多大なダメージを与えてしまいます。

①電池を取り外せるものは外して電極にテープを貼り(絶縁して)、使用済小型家電回収ボックスの電池投入口に入れる、②取り外していないものは小型家電投入口に入れる、③回収ボックスに入らないものは、ごみ処理施設に直接持ち込む。いずれかの方法で処分してください。

使用済小型家電回収ボックスは、各区役所、図書館、公民館などに設置してあります。



「真冬の生きもの大捜索」  
12月19日(日)・26日(日)・1月30日(日)、シーオそだて隊「真冬の生きもの大捜索!」を行いました。3日間合わせて57名が参加



生きもの大捜索

「E」Ecosystem(生態系)の「E」Observation(観察)の「O」の頭文字をとったものだそうです。今後、皆様と一緒に愛される、桜環境センター・ビオトープ「ジーオ(SEEEO)」となるよう、運営していきます。


また、2022(令和4)年度からは「田んぼクラブ」の活動をジーオそだて隊に行います。当日受付の活動と予約が必要な活動がありますので、詳しい活動内容、日程はHP、市報でご確認ください。皆さまのご参加をお待ちしています。

### 桜環境センターの利用団体紹介

### 桜金継ぎサークル

こわれた器に命を吹き込む  
桜金継ぎサークルは2017年、桜環境センターで開催された金継ぎ講座をきっかけに発足。材料や道具を共有し、お互いに切磋琢磨しながら活動しています。  
会員は現在25人。参加動機のひとつが、思い出の品を大切に使用したい、お気に入りの品をよみがえらせたいという気持ちで、毎週、



欠けた器を持ち寄って、賑やかに活動しています。  
江戸時代から続く技術  
「金継ぎ」とは、壊れた陶器を漆で接着し、装飾を加えて新しく蘇らせる方法です。縄文時代から使われていた漆の技術に「わび・さび」の美意識、金蒔絵の技術などを取り入れながら発達し、江戸時代には庶民の日常にまで浸透していた、日本独自のわざです。  
長年続けているうちに熟達しても、技術だけではない、センスが求められるので、新しい挑戦はずっと続いていきます。  
\*\*\*\*\*  
●桜金継ぎサークルを、より詳しく紹介しているHPはこちら。  


金を蒔(ま)くと一口に言っても、キラキラした金がいいのか、渋い金がいいのか、漆だけで継いだほうがいいのか、一つ一つの器に合わせた継ぎ方があります。また、絵を描いたり、欠けた部分そのものを形成することもあります。

### 十人十色の継ぎ方